

年頭の所感

魚津商工会議所
会頭 浜岡弥次兵衛



我が魚津市は昭和十七年四月、一町十一ヶ村の大同団結によつて発足以来茲に第三年目の新春を迎えましたことは、市民各位と共に喜びに堪えないところであります。

昔から石の上にも三年と云います。

此意味におきまして我が魚津市にとつて本年は、最も大切な年であると私は考へるものであります。

産業に、教育に、文化に、はた又交通に多岐多様に亘り其の基礎を確立し、以て大魚津市建設の第一歩を踏み出さねばならぬ年でありま

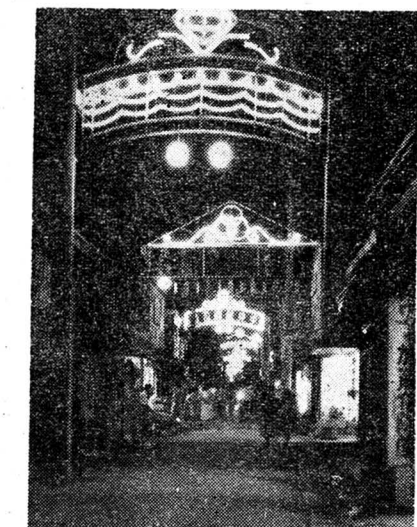
魚津市の発展と漁業

魚津漁業協同組合
組合長 中村元次郎



春光輝しき一九五四年を迎えられた魚津市民の皆様、心からお祝い申し上げます。戦後極度に荒廃した漁業も、魚津市の発展と共に最近ようやく立ち直り、年々増加の一途をたどり、現在では漁獲高も戦前を上回つて来たのは、漁民各位の生産意欲と漁業技術の向上に外ありません。特に北洋漁場に於いては、非常な進出を示し魚津漁民の卓越せる技術は、絶対他に追従を許さず日本漁業の発展に貢献致して居ります。

申す迄もなく魚津漁業協同組合は、魚津市の台所として重要な役割をもつて居



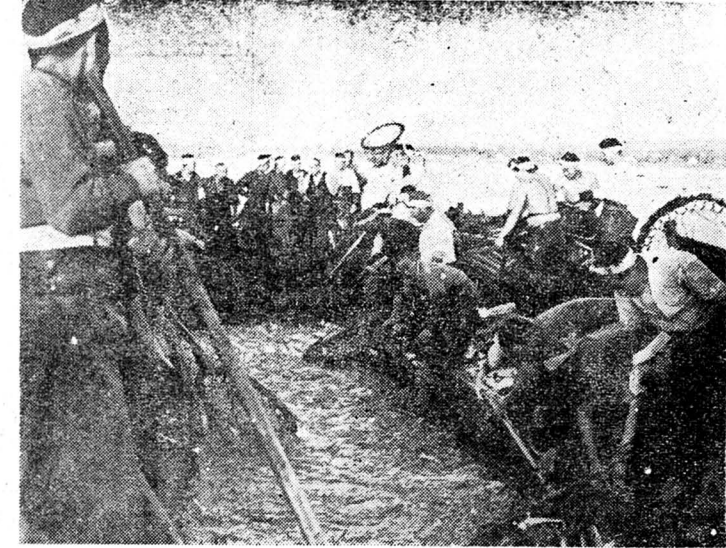
八百四十八名を出してあります。次に市当局の御援助を受けて高周波乾燥機を工業試験場魚津分室に設置いたしました。

魚津市の関係業者は勿論遠く入道方面の業者にもまで利用していただいております。更に商工会議所会報の発行と共に会員との連絡並びに商工業の指導に貢献して来ております。

この外市当局と協力して魚津駅の改築、電話ケーブル線の延長等に陳情し、其の目的を貫徹いたしましたことは市民各位御承知のことでありました。

本年更に於きましては、県民多年の要望である富山産業銀行の発足に際し、金屋町に魚津支店を開設する外、会議所庁舎を建設し、新商工会議所法に基く商工団体として発足いたしました。

何卒市民各位の絶大なる御支援と御鞭撻により商工会議所本来の目的達成に微力を致し度いと存じます。



私の過去の業績のすべてを挙げて魚津漁業の向上に、そして魚津市発展に尽すの決意であります。

最後に魚津市民の絶大な御支援の程をお願いするものであります。

新春の所感

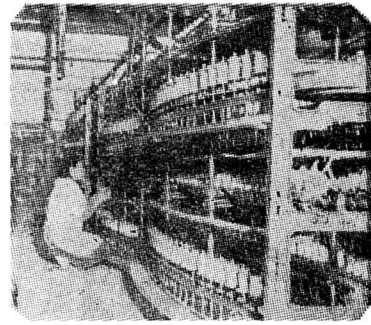
小坂機業場
場主 小坂宏和



鳴り響く除夜の鐘と共に茲に昭和二十九年の新春は静に訪れ、市制誕生第二回の新年を迎えました事は誠に御慶びに存じます。

顧みますれば昨年は、国家独立後幾多施策の転換と過去三ヶ年の永きに亘る隣邦朝鮮動乱の休戦成立に依り、日本産業界並に日本経済界に於て実に変化の多い年でありました。

又我が魚津市に於きましても、着々市政の充実と共に産業博覧会の準備、水害の復旧、上水道の完成、



又年末には市工場設置奨励条令の決定等観光的或は産業的都市としての布石をなされた事は、市勢振興の爲に欣ばるべきことと存じます。

一年の計は元旦にありと申しますが、この意味で今年の諸問題を考え、見ますと重要問題が山積している中、就中あらゆる面における自立態勢の確立こそ刻下の急務であるかと存じます。これが為相當の困難と断絶の努力を覚悟せねばならぬと思ひます。即ち国家に於きましても市におきましても、会社工場に於きましても、或

新年を迎え

市4Hクラブ連絡協議会長

廣田俊弘

「新年を迎へ皆様おめでと御座います。今年こそはと、張切る心意氣が無言の内に胸の中に息吹きと共に湧立ちます。理想郷土の建設と云う。高い理想にふけりつゝ農業改良に努力する吾等の4Hクラブの集いも明けて六年を迎えました。昨年は天候の不順にもかゝらず研究の業績を次々と生み、磯波町で開催された県下4Hクラブ実績展示会で、県下唯一の好成绩を収めた。これも偏へに市当局の温かい御援助の賜ものと感謝にたへません。春早々吹雪を御いて出発する農業研究実習派遣員諸君も、よりよい専門的研究の成果を持ち帰つて来てくれる様、



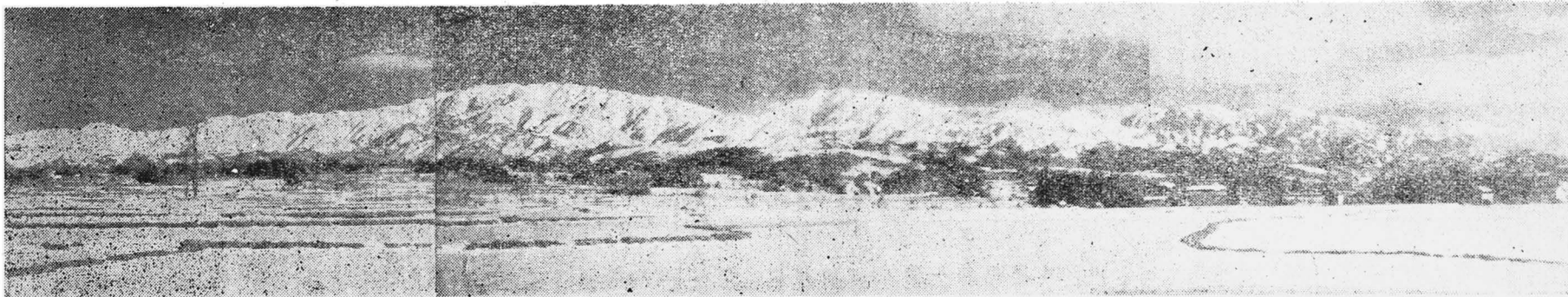
電報電話事務関係は

大町庁舎に移転

昨年末迄は、狭い郵便局で電報電話事務関係を行つてきたが、今度大町庁舎に移転いたしました。今後電話の事についての問い合わせは、電話二〇〇番へ皆さんの「サービス」本位を「モットー」とし務めさせていただきます。其の他の問い合わせは電話五十一番へ



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|------------|------------|-----------|------------|------------|--------------------|-------------|------------|-------------|--------------|-------------|------------|------------|--------------|
| 委員長
島沢昌作 | 委員
伊東清一 | 委員
西田源次郎 | 委員
植木弥一 | 委員
高見源二 | 委員
清河七良 | 委員
林秀雄 | 委員
伊東直二 | 委員
高瀬幸作 | 委員
高橋実 | 委員
浜多由利 | 委員
中島金二 | 委員
寺田信一
(議長) | 委員
三吉助之丞 | 委員
大森久雄 | 委員
住吉久太郎 | 委員
浜岡弥次兵衛 | 委員
高橋与次郎 | 委員
朝野信治 | 委員
徳本謙治 | 委員
長谷川作次郎 |
|-------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|------------|------------|-----------|------------|------------|--------------------|-------------|------------|-------------|--------------|-------------|------------|------------|--------------|
- 魚津市公平委員会
- 魚津市選挙管理委員会
- 魚津市教育委員会



新年に想ふ

富山地方裁判所魚津支部 事 判 決 官 澤中龍

魚津市には世界的天然現象の一つ 同時に、大衆が関心をもちて居るの
である蟹気候と、他所では見ること であるから、今から出来るだけ多く
の出来ない蟹イカが居る。之等は何 の人に見せる様に創意工夫すること
れも本年の富山博覧会場の開館と が肝要でないかと思料されます。

魚津税務署長 堀 幸次



男も女も追羽子にたわむれたお正月
十人も子供もともに、いろはかるたに、すご
ろくに、ミカンなどをかけて楽しんでお正月、
どの家もしめ飾り美しく門松をかざり祝つたお正月、
私はこうした時代の正月に生れ、少年期を過ぎたのであつた。
もういくつねとお正月、お正月には肌あけて、まりをつい
てあそびましよう……
こんな歌をうたつて正月を待った少年の日のお正月の思い出は
私にとつてもつとも懐しい思い出の一つ
となつて、毎年お正月を迎える毎に思い
出される。



懐いでの正月

夢中になつた思い出、糸が切れそうで糸をもつて風について走
つた風強い日の思い出、
風糸ですれやぶれ、指のいたさをこらへては、毎日の様に風揚
をした思い出、
これは私が紺がすりの着物にハカマをはいて重ねの弁当箱を手
編の袋に入れて、
荷馬車の尻につけて 馬方に叱られながら
通つた小学校時分の
その時分は街道筋は
「ブーブー」と
ラッパを吹いて馬車が
春風を切つて走つてたものであつた。

年賀郵便のこと

魚津郵便局長 神初一正



何も考えずに年賀郵便のことを書
く程、最早年賀郵便に埋れてる私
である、大正の末期に近い頃だつた。
私のいた高岡局には、その頃まだス
トロープの設備がなかつた。二十五日
になると大火鉢が出て繁忙態勢に入
る。何十という賀状を山に積んで
夜中二十人位で働き続ける。二、三
時頃には元気がなくなるので、全員
でその頃の流行歌を歌つて(非能率
なので今はやらない)元気を付けて
夜明けを迎えた。二十七日以降は全
局員が泊り込みだつた。勿論食事は
局で出る、泊り込みといつても宿直
室に引きつばなしの寝床で風夜のさ
あ。

正月を迎えて

下新川地方事務所長 西勝久蔵



一昨年 市民の 一員に
加わり
東も西もわかれぬ中に去年
の正月を送つたのですが、
今年の正月は市民になり切
つたせい、何となく落着
いた味のある正月の様に思
われる。
それだけよいに市の躍
進を希望するものがある。
ある。願ひて昨年の市の歩
みは実に素晴らしい。歩
みは、八幡橋の竣工、教
育施設の整備、水族館の再
建等々其の前進は市制二
年目とも思はれぬ程なもの
だつた。今年に更に今年で
もあり、博覧会もあり、こ
れを契機として天馬空を行
つた勢で飛躍することを祈
つてやまない。農業も昨年
の様な肥料枯乏は根絶すべ
きであり、無家畜農家は解
散、豊かな田園都市の生れん
ことを望んでやまない。漁
業も、漁獲量を増やし、漁
船の近代化から母船式積極
法へ転換すべきであらう。
かくて名実ともに田園都市
出現すると思う。

屠

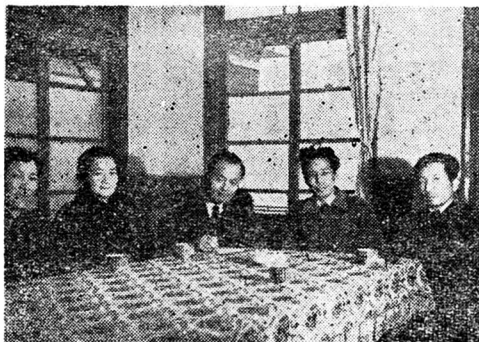
西部中学校長 徳田志武美

お正月といふと何となく
気が改まる。どうして此
の季節に正月を置いたか知
らぬが多至又は、春分の日
の年始めと定めてもよか
つた筈である。妙なときを
正月としたものだと思ひ
頃よくそう思つたものであ
る。
そして大晦日と元旦と別
に地球の廻転に変わったと
ころは無いのに、人々の気持
の上には鬼が笑顔になる程の
変化を与える事も面白いと
思う。一陽来復等と云はこ
れから寒くなるのに早くも
春が来た気になるのもめで
たいと言へばおめでたいと
気の持ち様というものはお
かしなものである。
子供の時の様に正月を楽
しく迎えられたら人生はさ
ぞ幸福だらう。
日本も速くたて直つて屠
蘇に酔い太平楽を舞い度
いのもである。

今年を五冊

去る一日(いちにち)は壮年団員と婦人会員数名とが
「一年を回顧して一九五四年を語る会」を開きました。
参集せられた方は、壮年団の後藤広作氏、守谷良雄
氏、婦人会の浜多由利氏、辻富子氏の四名でありまし
た。

市壮年団は昭和二十七年
九月、高き教養と同志的結
合のもと、一般市民の公正
な言論を結集し、産業に
経済に、政治に、広く社会
活動に以て、郷土の福利創
進に寄与する目的を以て創
設されたもので、創設以來
一年有余のこの間、ひたむ
きにこの目標に向つて精進
されつゝあります。
こそで壮年団の方は次の
様に語つています。
今一九五三年を送るに当
つて回顧されることは、壮
年団は壮年各一人一人の
政治活動に依つて、一歩
づつ市政発展のために努力
を捧げていると言えるでし
ょう。来る一九五四年は、
団員全部が各専門的部門に
分れ、各々専らに専門
の使命に精進して、下々の
具体的実践に乗り出す考え
であります。特に魚津市は
呉東に於ける中心都市とし
て、又県下の三大都市とし
て、又内容内容共に斯くあり
たいと願うものであります
又市の連合婦人会は、各
地区の非常に古い歴史を有



する単位は婦人会が、昭和
二十七年四月魚津市の誕生
によつて結合し、生活改善
をかざして日夜努力を為さ
れつゝあります。
婦人会
の方々は
声を揃え
て次の様
に語つて
います。
結婚改
善に就て
は、先程
の果下の
結婚実態
調査の結
果を見る
と、此の
地方の成
績は少し
づつ向上
している
事がある
が、非常
に意を強
くしてい
るもので
あります
が、間近
に起る実
際問題の
一つは、
心ある方
々のひん
しゆく
すべき数
々があり
ます。然
し結婚に
対する考
え方が幾
分でも好
い方向に
進める為
めたい為
めに下部
組織を強
化しつゝ
あるか、
あるべき
姿はどう
であらね
ばならぬ
かなど、
求める気
持を各自
がもつた
らば、古
い習慣を
打破する
ことも、
左程困難
ではない
のではな
からう
か。来る
一九五四
年には、
是等の事
を一層効
果あらし
めたい為
めに下部
組織を強
化しつゝ
あるか、
あるべき
姿はどう
であらね
ばならぬ
かなど、
求める気
持を各自
がもつた
らば、古
い習慣を
打破する
ことも、
左程困難
ではない
のではな
からう
か。来る
一九五四
年には、
是等の事
を一層効
果あらし
めたい為
めに下部
組織を強

謹賀新年

魚津市
固定資産評価審査委員会
委員長 守谷留治
委員 山口紋夫

農業委員会

魚津会長	高山源次
下中島	山口源次
上中島	高木源次
松倉	河崎源次
上野方	荒川源次
下野方	丸本源次
片貝	山本源次
加積	長谷川源次
道下	平谷源次
天田	関根源次
西布施	布田源次

市勢振興委員会

委員長	平沢吉治
下中島	川上源次
上中島	河崎源次
松倉	木下源次
上野方	谷口源次
下野方	長田源次
片貝	佐々木源次
加積	関根源次
道下	中野源次
天田	森崎源次
西布施	守谷源次

昭和二十九年年度

保育所入所希望児童の 申請受付開始!

今春保育所に児童を入所
させようと思はれる家庭
においては、次の事項を留
意の上期限迄に申請され
る必要があります。
一、入所の要件
児童福祉法にいう「保護者
の労働又は疾病等の理由に
より、その監護すべき乳児
幼児又は少年で保育に欠
け」と認められるもの
であり、即ち保護者の労働
病氣又は家庭の貧困により

